

平成30年度 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)				前年度の成果と課題				本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
<p>「ユニバーサルデザイン(UD)」を基本理念とし、「科学・共生・感動」のコンセプトを具現すべく教育活動を展開し、生涯を通じて不断に学び考え、多様な人々と協力し合いながら、主体性を持ってより良い社会作りへ貢献できる人材の育成を目指す。そのために、以下のことを推進する。</p> <p>(1) 学習における基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広い学力を育む活動を推進する。</p> <p>(2) 基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。</p> <p>(3) すべての教育活動の実践をとおして、南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。</p>				<p>一昨年度の創立10周年を経て、これまでの歩みを振り返りながら、今後の更なる充実・発展に向けてスタートした昨年度であった。進路指導においては、進学、就職ともに、個に応じた丁寧で組織的、持続的な取組が一定の成果をあげた。本校の特色ある八幡支援学校との交流及び共同学習についても、南北両キャンパスで充実したインクルーシブ教育を推進することにより、両校のスクールパートナーシップを更に深めることができた。</p> <p>一方、今後の課題として、基礎学力を定着させ、自ら課題を解決する力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実践する授業改善のための取組を継続するとともに、両キャンパスの教育活動をより活性化し、その広報活動を一層充実させることで、より中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを引き続き行っていくことである。</p>				<p>南北両キャンパスの一体感を基盤として、あらゆる教育活動をおとして、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。</p> <p>(1) 普通科と2つの専門学科における、それぞれの教育内容の更なる充実・発展</p> <p>(2) 就修学保障及び進路保障に向けた指導改善の研究・研修の充実</p> <p>(3) 安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実</p> <p>(4) 学習システムのUD化と授業を大切にする取組の充実</p> <p>(5) 保護者・地域連携による基本的な生活習慣及び社会的自立心の育成</p> <p>(6) 学校行事、部活動、ボランティア活動等の充実による学校の活性化</p> <p>(7) 八幡支援学校との協働を含め、インクルーシブ教育の推進・研究</p>			
分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価	成果と課題
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたかとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どういう状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。	中間	年度末	
組織運営	組織運営	教育力の向上	学校の教育力を一層向上させる。	教職員の研修機会を増やし、資質向上に努める。	研修受講数	3	センター研修の積極的な受講を促し、受講する機会を増やす。 授業見学の実施	受講数 授業見学会に参加する教員数	前年度比増 延べ100人以上	2 3	センター研修については、今年度中堅教諭等資質向上研修の対象教員が計6名おり、一般研修は前年度より微減しているが、他が主催する研修について若干ではあるが増加している。また、授業見学についてはICTを活用した授業も数回実施され目標を達成した。
	組織運営	広報活動	積極的な広報活動に努め、中学生や保護者、府民の本校に対する理解を深め、志願者の増加をめざす。	報道機関による報道回数	前年度比増	2	報道機関等へ積極的な広報活動を行う。	報道回数	前年度比増	2 2	報道機関等への広報活動を十分に行うことができなかった。ホームページのリニューアルについて、準備を行った。
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる	年度末アンケートでの「人がもつさまざまな個性のちがいを認めあえる」の項目に対する肯定率	90%	3	各学年の目標に基づきUD学習を推進する UD教育に関する記事を含む「UDつうしん」を発行する	UD学習に向けての各学年との打ち合わせや総括などの回数 年間の発行回数	各2回 8回以上	3 3	各学期とも、担任団との連携を密に図り、学習効果を高める工夫を重ねてUD学習を実施することができた。年度末アンケートでは、設定した項目の肯定率が93.0%と、3年間のUD学習をとおした学習効果が上がっていることを確認できた。
	組織・運営	生徒募集	本校の魅力や特徴をわかりやすく情報発信する	入試選抜における志願者数	募集定員を超えている	2	学校ホームページの充実 学校説明会の開催 中学校及び塾訪問の実施	最新ニュースの発信やコンテンツ更新の年間回数 説明会毎に実施するアンケートによる肯定率 年間訪問回数	100回以上 80% 2回以上	2 3 3	年間をとおして学校説明会等における参加者の満足度は高く、実施方法の工夫・改善の成果が見られた。しかし、前年度比で参加者数が増加した説明会は10月の普通科説明会のみで、募集定員を上回る志願者数獲得につなげることはできなかった。特選にかかった効果的な情報発信、学校説明会等の開催時期の精選、実施方法の工夫や内容の充実、地元中学校からの志願者増に向けた取組等、多岐にわたる課題に継続して取り組んでいかなければならない。
教務部	組織・運営	生徒異動	学習システムのUD化を進める	転退学者数	昨年度比減	2	調査前・学期末に成績不振者に対する基礎補充を実施する 追認対象生徒に対する補充を実施する HR出席簿への転記を呼びかける 欠課過多生徒の報告(連絡)の徹底を呼びかける	成績不振者数 追認率 欠課過多生徒数 欠課過多生徒数	昨年度比減 80%以上 昨年度比減 昨年度比減	3 2 3 3	両キャンパスとも成績不振や追認に関して危機感の希薄な生徒が少なからず見受けられたが、学年末が近づくとつれ、危機感をもち課題やテスト勉強をするようになってきた。しかし、特に北キャンパスにおいては、進級をあきらめてしまうものが少なからず出てしまった。
	組織・運営	学力向上	学習指導の充実を図る	生徒満足度調査「Q8.学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	70%以上	2	読書活動の推進 調査前学習会の実施	生徒一人あたりの貸し出し冊数 年間設定回数	昨年度比増 5回	3 3	図書館の利用については、北キャンパスでは来館者が増え、南キャンパスでは授業での利用が増えた。調査前学習会については、両キャンパスとも予定どおり実施できた。特に南キャンパスでは基礎補充として呼び出した生徒以外にもわからないところがある生徒が積極的に参加した。
生徒指導部	生徒指導	生徒指導	学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせる環境をつくる。	生徒満足度調査「学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせますか」の肯定率	肯定率 75%以上 強い肯定率 35%以上	2	盗難がおこらない環境の整備及び啓発活動 交通安全等に関するHR指導(交通安全指導、担任への資料提供等) 身だしなみ強化期間の設定 遅刻生徒に対する指導の強化	生徒満足度調査(Q13)の肯定率 実施回数 実施の回数 遅刻回数	肯定率 80%以上 強い肯定率 50%以上 12回 1回 2回	2 2 2 2	家庭や地域と連携を深め、学校全体で生徒指導を行う体制を整えているが、北キャンパスでは、女子生徒の化粧や身だしなみに関しての指導について効果的な方策が見いだせていない。南キャンパスでは昨年に引き続き貴重品の管理の徹底ができず、また、遅刻についても効果的な指導につながっていない。
	生徒指導	部活動	生徒の主体性を育み、学校への帰属意識を高める	生徒満足度調査「本校には打ち込める部活動や体験活動などがありますか」の肯定率	肯定率 75%以上 強い肯定率 35%以上	2	部活動加入を促進 生徒部通信等の発行によるアピール 部活動部長会の開催	12月時点での部活動加入率 発行回数 実施回数	40% 10回 3回	2 3 2	部活動の加入はほぼ例年と変わらず、活動の定着率や継続率を安定できる工夫がさらに求められる。部活動部長会の定期的な開催は日程的に困難な状況にある。部の活動状況や共通する課題を洗い出し、本校に合った部活動の在り方を共有し課題に取り組んでいきたい。
進路指導部	キャリア教育の充実と推進	組織的な進路指導と進路実現	各学年との連携を密に、正しい職業観、勤労観を身に付けさせるとともに、明確な進路目標を持たせることで進路実績の向上を図る。	生徒満足度調査「進路実現に向け、効果的な指導を行っているか」の肯定率 就職内定率、進学者数	肯定率80% 就職率100% (現役生) 進学者数維持	3	進路情報の提供及び進路対策会議の実施 就職希望者への事前・事後指導 就職ガイダンス・事後指導の実施回数 進学希望者への学習活動の充実と環境整備	進路だよりの発行回数対策会議の実施回数 就職ガイダンス・事後指導の実施回数 進学補習、We Can Project(土曜補習)、個別指導等の実施回数	発行回数6回以上全席 2回 20回以上 進学補習等のべ150回以上	3 3 3	肯定率についてほぼ達成することができた。就職に関しては100%を維持できた。進学者については昨年度の数を維持しており、さらに大阪教育大学や同志社大学に合格するなど健闘した。進路に関する動きの遅い生徒がいるため、進路情報提供などの働きかけを行い、進路意識を向上させたい。
保健部	保健管理	環境管理	環境美化への意識を高め、清掃活動を充実させる。	学校満足度アンケート質問17「教室や廊下、下駄箱等はきれいに清掃されていますか」の肯定率	65%	2	生徒会、安全美化委員会、保健委員会で、清掃活動への取組に関する呼びかけを行う。 「ほげんだより」で、環境美化についての呼びかけを行う。 エコキャップ運動に関する教室掲示を行う。	呼びかけの回数 掲載回数 掲示回数	3回 4回 2回	2 2 3	評価指標の南北の平均は基準を少し下回った。南は基準を上回っており、北での清掃活動の充実が必要である。1年生では肯定率が高いので、来年度も現状を維持できるよう働きかけていきたい。角角清掃については今年度は南キャンパス周辺でも活動を行った。参加しやすく来年度も継続して行いたい。また、安全美化委員・保健委員の活動として、文化祭や体育祭でゴミ分別を呼びかけることができた。
第1学年部	学習指導 生徒指導	学力の育成及び生活規律の確立	基礎学力の定着を図るとともに、基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を持った集団の育成に努める。	満足度アンケート「生徒への手立ての充実」の肯定率及び「信頼・安心できる高校生活」の肯定率	80%以上	2	定期考査前の勉強会にとどまらず、日常的に学習会や自習室を設定するなど、学習環境を整え、支援にあたる。 生徒の状況等を学年会で共有するとともに、保護者との連携を密にした個に応じた指導に努める。 基本的な生活習慣を確立するため、教室の美化に努め、始業前、授業中、休憩時間、放課後等の校内巡視に努める。	学習会等の開催回数 情報交換回数手立てを要する生徒との面談回数 巡回等の頻度	年間40回 学年会毎年間3回以上 毎日	2 3 3	学び直しや考査対策の学習会を学年全体で開催する計画を立てていたが、学年全体では生徒が集まらず、結果的にクラス毎の学習会しか開催できなかった。その結果、「手立ての充実」が73.3%、学校への信頼が67.3%と目標に届かなかった。来年度は学習への手立てを工夫し、学校への信頼度を上げていこう努めたい。
第2学年部	進路指導	進路意識の向上	進路希望未決定者を減らす。	学年末進路希望未決定者数	24人未満	3	生徒や社会のニーズに敏感になる。 きめ細かい進路情報を提供する。 生徒の状況について学年会等で検討する。 南北キャンパスの連携を密にする。	面談実施回数 進路学習実施回数 検討回数 情報の共有頻度	3回 5回 24回 週1回	3 3 3 3	進路希望未決定者を減らすことはできたが、それぞれの希望進路実現にむけて、さらなる努力を続けたい。
第3学年部	学習指導・生徒指導	規律の確立	進路実現に向けた学校生活規律の確保	年度末での進路決定者の割合	95%	3	進路実現に向け、授業を大切にする意識の定着を図るため、日々の細かな指導に併せ、定期考査に向けた学習会や自習室を設定するなど、学習環境の整備、体制を整える。 進路実現に向け、基礎学力・基本的な生活習慣の形成を図るため、日々の細かな指導に併せ、個に応じた二〜四者面談を積極的に実施するなど、保護者連携も踏まえた指導を徹底する。 担任団の機動的な組織力を高めるとともに、生徒のより内面に迫る規律指導を強化するため、授業中や休憩時間等の校内巡回指導を徹底する。	定期考査前の学習会・自習室の設定 手立てを要する生徒・保護者との面談	毎考査 年間3回以上	3 3	個に応じた日常の細かな指導を重ねるなど、進路実現に向けた学校生活規律の確保を図り、各々の試験・面接の場面において適切な態度・行動で臨めるよう努めた。また、2月の登校日を二者面談にあて、進路状況のフォローにも努めた。卒業後の見通しを持った者が95%以上となり、所期の目的を達成できた。
事務部	施設・設備管理	生徒の事故防止	安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実を努める。	施設・設備に起因する生徒の事故件数	0件	3	各分掌、教科からの予算要望書提出時などの際に、施設設備の状況確認を行う。 教職員からの施設設備異常の報告を受けた際に、速やかに方策を検討する。 整備を必要とする事項を所管課に報告し、改善を依頼する。	予算要望ヒアリングの実施、予算配分通知の提示 改善の時期、改善完了の逐次報告 年間の報告・依頼回数	1回 報告毎 2回	3 3 3	今年度中に施設・設備に起因する生徒の事故等がなく、当初の目的は達成できた。地震、台風等の影響で破損した箇所について予算配分を待っていたが、結果的に配当は不足となる事象が起きてはなかった。今後も予算との兼ね合いが重要ではあるが、できる限り迅速な対応に努めたい。
	組織・運営	事務処理	就修学保障、進路保障に係り、生徒、保護者に対し、就学支援に関する案内や事務処理を適切に行う。	就学支援制度について生徒、保護者への周知徹底	制度通知の都度	3	高等学校等修学支援事業、日本学生支援機構奨学金などの就学支援制度に係る事務について、生徒、保護者向けの案内や手続きの進捗状況を事務部内で確認する。 教職員(特に学年部)との連携を密に行う。	北・南キャンパス合同の事務部打ち合わせ実施 部長会、職員会議で事務部発信の生徒、保護者向け配布物の周知	学期に2回 配布毎、会議毎	2 3	北・南キャンパスの合同の打ち合わせの実施については目標達成に至らなかったが、個別にそれぞれの職員が出向いたり、電話連絡などを密にすることで連携不足となる事象が起きることはなかった。今後もより一層の連携を意識していきたい。
専門学科	魅力ある学科作り	学習指導	専門学科生としての学習意欲を高める	生徒満足度アンケート「学校全体(南)に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%以上	2	授業の開始時と終了時の礼と挨拶、授業の準備を徹底する 学科研修会を実施し、全体での情報交換をする 学科集會を実施し、各学年の連携を図る	授業アンケート10「私は授業の準備をしっかりとっている」 年間の開催回数 開催回数	3.6 5回 3回	2 3 3	授業規律の確立に向け、今年度は具体的方策の1に力を入れて継続的な指導を行ったが、わずかに目標値に至らなかった。全員が落ちついて学習できる環境づくりを引き続きの課題とした。2、3に関しては今年度も計画的に実施することができ、学科の絆を超えたキャンパス全体の指導につながった。

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価	成果と課題	
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どのような状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間 年度末		
国語科(北)	学習指導	学力の向上	意欲的・主体的に学習する習慣を作り、学力を向上させる。	授業アンケートQ6、10、11、12の平均値	3.5	2	各単元につき1回以上、発表や意見を記述する機会を設ける。 各単元につき1回以上の提出課題を課し、取組態度を評価する。 家庭での学習習慣の定着を促し、計画的に小テストを行う。	実施回数 実施回数 実施率	単元に1回以上 単元に1回以上 80%	3 3 3	重点目標に関して、年度当初の目標を達成することができなかったが、相対的には高い数値を保っており、また1学期と比較しても数値は上がっている。今後も継続して指導を続けるとともに、より効率的な指導を目指して改善を続けていきたい。	
地歴・公民科(北)	授業	基礎学力の向上	日々の学習習慣の定着化を図り、基礎学力を向上させる。	授業アンケート項目Q6.8.9の平均値	3.4	3	授業開始時に授業に必要な物の確認を行う。 各調査ごとに、授業内容の振り返りを行う。 各学期ごとに他教科も含めて授業見学を行い意見交流を行う。	年間実施率 実施回数 実施回数	95% 5回 年2回	3 3 3	2学期の授業アンケートでは平均値が3.4を上回っており、重点目標は達成できたと考える。また、生徒の状況に応じた指導方法を各教科で話し合い、実施することができた。来年度に向けて更に、専門的知識を養うために教科会での研修を増やしていきたい。	
数学科(北)	授業	授業規律の向上と授業への積極的な参加	規律ある授業を確立し、生徒達に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている」Q12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の平均値	3.3	3	服装等の身だしなみ、起立、礼を徹底する。 授業中にノートを取らせ、定期的な点検をし、加点の対象とする。 問題集やプリントを利用して演習をさせる	授業の取り組みの点検 点検の回数 問題集等利用の回数	週3回 学期2回 週1回	3 3 3	指標としていた項目について数値が向上し、概ね目標を達成できた。今後も積極的に学習に取り組む雰囲気醸成していきたい。	
数学科(北)	研修	指導力向上	積極的に様々な研修に参加し、指導力を向上させる	授業アンケートQ3「先生の指示や説明はわかりやすい」Q6「この授業で学力や技術が伸びたと感じる」の平均値	3.2	3	中学校や校内他教科の授業参観に参加して、自分の授業の指導に活かす 校外の各種研修に参加し、教科会議で報告することにより教科に還元する 教科内研修を続ける	公開授業等への参加回数 各種研修への参加回数 教科内研修の回数	年3回 年1回 年3回	3 3 3	目標の数値を達成し、特に学力の伸長を実感する生徒が増えている。より一層、教科として授業力向上に努めた。	
理科(北)	授業	基礎学力の向上	授業に興味・関心を持たせ、自然現象に対する関心と理解を高める。	学期毎の成績不振者数	前年度比10%減	2	確認テストを提出させ、各生徒の学習状況とその定着度を確認する。 実物を手にとっての観察や実験を実施する。 校外研修等へ参加し、研究と修養に努める。 授業・受け持ち生徒に関する報告・検討会を設ける。	確認テストの作成回数 実験・観察の実施回数 研修参加回数(1人につき) 報告・検討会年間実施回数	年間単位数×20 各講座平均2.4回 平均3回 年間30回	3 2 3 3	学年末の不振者数が前年度より増加の見通しがある。確認テストを実施したが、実施頻度が少なく目標回数に届かなかった。実験・観察の機会は科目によりばらつきがあるものの科目の特性に応じた実験・観察を行った。校外研修等で身に付けた知識を生徒に還元できるよう研修を積みたい。	
保健体育科(北)	授業	学習意欲の向上	自らの健康を管理し、改善できる資質や能力、態度の向上を図る。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.7	3	健康の保持増進につながる運動の大切さを理解させるとともに、体づくり運動、持久走・ロードレースを必修とし、基礎体力の向上を目指す。 ベル着の徹底及び集団行動の充実・定着を図り、ルールやマナーを守りながら安全に留意して活動できる規範意識の向上を強化する。 個に応じた指導など授業内容を工夫し、意欲的・積極的に授業へ参加する意識の向上を養う。	サーキットトレーニング30秒MAX及び持久走・ロードレースの記録向上の割合 体育の2分前集合完了、保健の1分前の授業準備完了の割合 保健体育の両科目で成績不振・欠席過多による単位不認定者	60% 60% 40人以下	3 3 2	持久走における記録向上や1年間を通して体力の向上がみられた。授業準備や規範意識については、授業開始前や授業中の声かけを行うことによりおおむね達成できた。	
芸術科(北)	授業	授業に対する取組状況	授業規律を確保し、毎時間活動内容に真剣に取り組む姿勢を身につけさせる。	授業アンケートの項目7.8.10.11の値	3.3	3	教科担当者が授業開始ベルの前から待機し、ベル着を呼びかける。 忘れ物の確認、私語、居眠り、活動状況等について常に指導し、成績に反映させる。 課題に対して、より良い作品やより良い演奏に向けて努力するよう指導する。	開始ベルの前から授業準備や着席を促す声掛けの割合 授業規律確保のための声掛けの割合 各生徒の活動状況に応じた指導の割合	90% 90% 80%	3 3 3	設定した課題について全員が概ね達成出来るように個別対応・補充等を丁寧な声かけ、不認定者0を目指して指導を継続することができた。	
英語科(北)	学習指導	授業	授業を大切にすることを意識を育て、基礎学力を向上させる。	授業アンケートQ5～9の平均値	3.4	2	小テストを実施し、各項目ごとに課題を課す。 ノート、宿題等を提出させて点検を行い、取り組み状況を確認する。 インタビューテスト等の表現活動を行い、生徒が主体的に授業に参加する機会を設ける。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 各学期の実施回数	5回以上 2回 1回以上	3 3 2	具体的方策の3については特に2・3年で実施回数が少なくなった。授業アンケートQ5～9の平均値は3.3で若干目標に達しなかった。来年度は目標値と方策ともに見直し、さらに生徒の表現活動の時間をいかにして作っていくかについても検討が必要である。	
家庭科(北)	学習指導	学習意欲の向上	授業に興味関心を持たせ、取り組む姿勢を向上させる。	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている。」項目の平均値	3.3	3	課題を毎時間に提出 体験的・実践的な授業の充実 ICT機器を活用した授業の実施	点検割合 実施割合 実施割合	90% 90% 90%	3 2 3	授業アンケートQ12の平均点は3.3を上回っており、ICTを活用した授業も高い割合で実施できている。体験的・実践的な授業については、実施が難しい分野もあるが、工夫を重ね、改善していきたい。	
情報科(北)	授業	授業に対する取り組み状況	前向きに授業に取り組む姿勢を身につけるとともに、情報機器に関する基礎技術の底上げをおこなう。	授業アンケートの「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の平均値	3.3	2	授業開始時にコンピュータのログイン、教科書等の授業準備が完了しているよう指導をおこなう。 忘れ物の確認をおこなう。 課題・授業プリントの提出を徹底する。	生徒自身の授業準備完了率 実施率 提出状況 実施回数 実施回数	100% 90% 90% 2回以上 1回以上	2 3 3 3 3	重点目標の基準値をクリアすることができなかったが、校外学習のプレゼンテーション等、生徒は意欲的に活動できていた。今年度新たに実施した取組を、次年度にも繋げていきたい。	
商業科(北)	授業	授業の成果	ビジネスに関する知識や技術の修得と資格取得。	授業アンケート「学力や技術が伸びた」の回答の平均値	3.1	3	生徒同士で対話する取組を、授業の中に入れる。 深い学びにつながる、生徒が主体的に研究する取組を入れる。 資格取得の有効性を説明し、受験者および合格者を増やす。	実施回数 実施回数 ビジネス系検定試験の受験者数	2回以上 1回以上 25人以上	3 3 3	1. 感想を交流したり、課題を相互見直ししたり、グループで企画したりする取り組みを取り入れた。考える力やコミュニケーション力、協働する力を高めることができた。 2. 探求課題を取り入れたことにより、授業への参加意欲を高めたことができた。 3. 今年度、検定試験の受験者は35人、合格率は82%である。受験者数の目標は達成できた。しかし、受験する生徒はまだ少ない。受講している生徒のほとんどが、検定試験を受験すれば合格する力は持っている。自分の専攻に向けて、技術を高めると、資格取得することをこれからも指導、推進していきたい。	
国語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	基本的な学習態度を身につけさせ、積極的に学習する雰囲気作りをすすめる。	授業評価アンケートQ7「クラス・講座全体が授業の準備をしっかりとしている。」Q8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の平均値	3.3以上	3	定期考査ごとに、ノートを回収し点検する。 1年生国語総合において、漢字の小テストを実施する。 授業開始時に、教科書・ノート等の準備ができているか確認する。	ノートの点検回数 小テストの実施回数 声かけの回数	定期考査毎 15回以上 毎回	3 3 3	重点目標、具体的方策ともほぼ達成できている。漢字検定の取り組みについては、問題を配付しての自宅学習に加え、各回ごとに事前学習会を開き、弱点の克服につとめ、2名が2級に合格した。	
地歴・公民科(南)	授業	基礎学力の向上	授業の理解度や興味・関心を深めることと、学習習慣の定着化につなげ、基礎学力を向上させる。	授業アンケート項目Q1～Q12の平均値	3.3	3	授業ノートの効率的な書き方指導および点検を考査ごとに行う。 学期ごとに言語活動をともなうレポートを課す。	実施回数 実施回数	3回 2回	3 3	具体的方策が上がっているノート点検とレポート課題はほとんどのクラスで実施できた。授業アンケートの平均値が3.3を上回っていたため、重点目標も達成できたと考える。次年度はレポートの質が向上するような工夫をしたい。	
数学科(南)	授業	基礎学力の向上	授業規律を確立する。 生徒の学習意欲を高める工夫をし、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている。」の平均値	3.4	3	課題を課し、家庭学習の習慣と基礎学力を身につけさせる。 始業チャイムと同時に立礼をする。	実施割合 実施割合	70% 90%	3 3	2学期の授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている。」の平均値は、3.51であった。1学期よりも下がっている原因を考え、次年度につなげたい。	
数学科(南)	検定・資格	検定受検・資格取得	数学検定を通して数学に対する興味・関心を引き出し、数学的な見方・考え方を身につけさせる。	数学検定の受験者数	5人	3	α講座に於いて、数学検定への受験を呼びかける。 数学検定に向けた補習を実施する。	授業内での呼びかけ 補習の実施回数	3回 2回	3 3	2.16(土)実施に向けて、生徒に受検を呼びかけたが、団体受検に必要な5名が集まらず、本校では実施できなかった。次年度は、実施時期を検討したい。	
理科(南)	授業	基礎学力の向上	学習に取り組む姿勢を高め、学力の定着を図る	定期考査毎の成績不振者数	前年度より減少	3	各生徒の学習状況を把握するため定期考査毎にノート点検。 小テストの実施により、生徒に復習の習慣を定着させる。 成績不振者に学習方法の指示を行い、状況に応じて補充を行う。	学習したノートの提出 小テストの実施回数 学期毎の成績不振者数	定期考査毎に提出 2週間以上1回以上 前年度より減少	3 2 3	小テストの実施回数は2週間以上1回以上実施することはできなかったが、ノート点検を定期考査毎に行い、定期考査に向けて学習方法の指示を行い、基礎学力の向上が図れた。	
保健体育科(南)	授業	学習意欲の向上	授業開始時の意欲を高める。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている。」の平均値	3.8	3	体育/保健の授業開始時における生徒準備状況を評価する。 授業を欠席、見学した際に届けを期日までに提出させる。	5分前・3分前・1分前に集合整列、または活動の準備をしている生徒の点検頻度 欠課届け、見学届けを期日までに提出させる達成率	90% 60%	2 2	3 2	行動が遅く指示待ちをしていた1年生が準備片付けを自ら探し、行動することができるようになった。2年生では、選択学習を実施する中で計画性・リーダー性・フォローへの意識が高まった。
芸術科(南)	学習指導	生徒の授業への意識の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める	授業評価アンケート7.8.9の平均値	3.3	2	必要物を確認し、不要物への指導を行う。 意欲的に取り組む姿勢を高めるために、生徒の活動状況に応じた指導を徹底する。	確認割合 授業規律の確保のための声掛け割合	80% 80%	3 3	3 3	授業評価アンケートの結果が基準には届かなかった。具体的方策は実行してきたが、生徒たちの集中力が長時間は持続しないので、今後は授業の在り方を検討したい。
英語科(南)	学習指導	授業	授業を大切にすることを意識を育て、基礎学力を向上させる。	授業アンケートQ10、11の平均値	3.4	2	小テストを実施し、各項目ごとに課題を課す。 ノート、宿題等を提出させて点検を行い、取り組み状況を確認する。 インタビューテスト等の表現活動を行い、生徒が主体的に授業に参加する機会を設ける。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 各学期の実施回数	5回以上 2回 1回以上	3 3 2	3の設定基準を若干下回ってしまった。次年度は表現活動をさらに取り入れるなど、生徒が主体的に授業に参加する機会を本年度以上に設けていきたいと考えている。	
家庭科(南)	学習指導	授業規律の確立	授業規律を確立し、授業に対して興味・関心・意欲を向上させる。	授業評価アンケート7.8.9の項目の平均値	3.3	2	調理実習時に事前予告のお知らせプリントを配布し、準備物の徹底を図る。 意欲的に取り組む姿勢を高めるために、生徒の活動状況に応じた指導を徹底する。	準備物持参人数 授業規律の確保のための声掛け割合	95% 80%	3 3	3 3	授業評価アンケートの結果が基準には届かなかった。具体的方策は実行してきたが、生徒たちの集中力が長時間は持続しないので、今後は授業の在り方を検討したい。
情報科(南)	授業	学習意欲の向上	授業に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ7(授業の準備)、Q9(意欲的取り組み)の平均値	3.3	3	授業開始時にはコンピュータ起動ができているか点検する。 課題への取り組み状況や態度を点検する。 フォルダに保存できているか、授業後点検する。	指導割合 指導割合 点検回数割合	90% 90% 90%	2 3 3	2 3 3	課題への取り組み状況や態度はチームティーチングで全体を見ることができたため、全員で学習する環境を作り出すことができ学習意欲の向上につながった。授業開始時にコンピュータを起動するためには教室に授業開始の前に入室する必要がある。年間を通して生徒に徹底させることができていなかった。次年度はさらに授業開始とともに開始できる環境づくりを進めていきたい。
福祉科(南)	授業	基礎学力および、専門的知識・技術の定着	学習環境を整え、専門科目における知識・技術の定着を図る。	授業アンケートQ7・8・9の教科全体の平均値	3.4	2	授業に集中できるように、授業規律を確立する。(姿勢を正し、私語を許さない) 全ての科目において、座学に止まらず、演習を実施し学習内容の定着を図る。	授業アンケートQ8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の教科全体の平均値 年間実施回数	3.4 10回	2 3	2 3	授業アンケートQ8平均値は3.31、Q7.8.9の平均値は3.34であった。中間評価時より向上したが、目標到達に及ばなかったため、来年度も引き続き規律ある授業に向けた取組を行う必要がある。